

平成25年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 本市の実施状況

○調査実施年月日 平成25年4月24日(水)

○実施内容

- ①小学校の教科に関する調査(国語・算数)
主として知識に関する問題 国語A、算数A
主として活用に関する問題 国語B、算数B
- 中学校の教科に関する調査(国語・数学)
主として知識に関する問題 国語A、数学A
主として活用に関する問題 国語B、数学B
- ②児童生徒質問紙調査(生活習慣や学習環境等)

○実施学年 小学校6年生 16校 1,369人
中学校3年生 9校 1,061人

2 本市の調査結果概要

○教科別調査結果 (平均正答率:単位%)

		国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
鎌倉市	小学校	63.3	53.5	78.4	60.9
	中学校	79.8	74.8	70.6	49.5
神奈川県	小学校	61.5	49.7	76.5	58.7
	中学校	76.3	68.9	63.8	41.9
全国	小学校	62.7	49.4	77.2	58.4
	中学校	76.4	67.4	63.7	41.5

本市の教科別調査については、小・中学校ともに、良好な結果でした。

特に、中学校の数学A問題・B問題において、全国平均正答率及び神奈川県平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言えます。これは、今までと同様の結果が出ており、バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられます。

3 教科に関する調査の結果(概要)

(1) 小学校

ア【国語】

全般的に結果は良好であった。特に、国語B「主として活用に関する問題」の調査結果については、全国・県と比較して、上回っている。

各領域では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、ことわざの意味を理解するなど良好な結果を示している反面、漢字の読み書き等不十分なものがある。

また、複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関連付けたりしながら、自分の考えを書くことについて、課題が見られる。

イ【算数】

算数A「主として知識に関する問題」、算数B「主として活用に関する問題」ともに、全国、県よりも高い正答率であった。

方法や理由を言葉や数を用いて記述する設問においては、全国や県に比べ正答率を上回ってはいるが、正答率としては低いため、場面の状況や問題の条件に基づいて必要な事柄を過不足なく記述することには一層指導の充実が求められる。

(2) 中学校

ア【国語】

国語A「主として知識に関する問題」、国語B「主として活用に関する問題」の全体を通して、良好であり、全国・県平均を大きく上回っている。また、無回答率も低い傾向にある。伝えたいことや根拠を明確にして自分の考えを書くことについても、身に付いてきている。

一方、文脈に即して漢字を正しく書くことや語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う等、言語事項に関することに課題がある。

イ【数学】

数学A「主として知識に関する問題」、数学B「主として活用に関する問題」各問題とも平均正答率は全国・県と比較して、大きく上回っている。B問題の正答率はA問題に比べ、全国傾向と同様に低い結果である。

また、記述式の問題については正答率が低く、特に数学的な見方や考え方について、数学的に説明することに課題がある。

4 領域別の分析

◇…良好と認められる点

◆…課題がある点

(1) 小学校

ア【国語】

話すこと・聞くこと

◇(B) 相手の立場や状況を感じ取って聞くこと。(A1一)

◆(A) スピーチの表現を工夫すること。(A7)

◆(B) 話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をすること。(B1二)

書くこと

- ◇(B) 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書き加えること。(B2一)
- ◆(A) 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。(A3二(1))
- ◆(B) 目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くこと。(B2三)

読むこと

- ◇(B) 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や読み方の違いを捉えること。(B3一ア、二)
- ◆(A) 広告を読み、編集の特徴を捉えること。(A5ア、イ)
- ◆(A) 俳句の情景を捉えること(A6ア、イ)

言語事項

- ◇(A) 今回出題された漢字を正しく読むこと。(A1一(1)、(2))
- ◇(A) 今回出題されたことわざの意味を理解すること。(A2)
- ◆(A) 今回出題された漢字を読むこと及び書くこと。(A1一(3)、A1二(3))

◎指導改善に向けて

漢字の読み書き等、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に不十分なものがあつた。日常の学習の中で、習得した漢字を定着させるような指導や評価に取り組む必要がある。また、今までの調査結果にも出ていたが、自分の考えを書くことが課題として挙げられる。目的や意図に応じて自分の考えをまとめるとともに、その考えを広げたり深めたりすることができるような指導に取り組む必要がある。また、個に応じたきめ細かな学習を行っていく必要もある。

○指導のポイント

- ・意見を述べた文章や活動を報告する文章などを目的に応じて編集する指導の充実。
- ・目的や意図に応じ、資料や文章を的確に読み取ったり、ねらいを明確にしたりしながら、自分の考えをまとめるとともに、その考えを広げたり深めたりする指導の充実。
- ・漢字を正確に読んだり書いたりする指導、また文や文章の中で漢字を適切に使う学習の充実。

○具体例

- ・自分たちの町の紹介等、目的や意図に応じてリーフレットを編集する学習。
- ・文の構成を理解し、複数の文を一文にしたり2つ以上の内容が含まれた1文を内容ごとに複数の文に分けて書いたりする学習。
- ・複数の広告を比べて編集の特徴を捉え、広告チャンピオンを探す学習。
- ・自分の考えをノートにまとめたり発表したり、文章で表現する活動を多く取り入れた学習。
- ・漢字が果たす意味を捉えた上で、習得した漢字を文や文章の中で適切に使ったり、正しく使用しているかどうかを評価したりする学習。

イ【算数】

数と計算

- ◇(A) 繰り下がりのある減法、商が小数になる除法、()を用いた整数の計算、分数の加法・乗法の計算をすること。(A1)
- ◆(A) 四捨五入で数を適切に処理する方法について理解すること。(A2)
- ◆(B) 示された三つの処理の仕方から、最も合理的な処理の仕方を選択し、その理由を言葉と数を用いて記述すること(B1(2))

量と測定

- ◇(A) 測定の目的に応じて、計器を選択すること。(A5(1))
- ◇(B) 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選択すること。(B2(2))
- ◆(A) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方を理解すること。(A4)
- ◆(A) $1a$ (1アール)の面積と等しい正方形の一辺の長さを理解すること。(A5(2))

図形

- ◇(A) ものの位置の表し方を理解し、特定すること。(B4(2))
- ◇(B) 図に示された分割の仕方とその説明とを対応させること。(B3(1))
- ◆(A) 合同な図形をかくために必要な条件を理解すること。(A6)
- ◆(A) 円柱について、底面の円周の長さとは展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解すること。(A6)

数量関係

- ◇(A) 棒グラフの目盛の数値に着目して、最大値を読み取ること。(A9)
- ◇(A) 百分率の意味を理解すること。(A8(1)(2))
- ◆(B) 表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを数と言葉を用いて記述すること。(B2(3))
- ◆(B) 単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を式や言葉を用いて記述すること。(B4(1))

◎指導改善に向けて

方法や理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを説明したり記述したりする学習に取り組む必要がある。また、グループで話し合う活動を取り入れるなど、課題解決への能動的な姿勢を育てたり、考えを広げたり深めたりするような指導が必要である。

○指導のポイント

- ・数直線等を活用しながら、四捨五入して指定された概数になる数の範囲を捉える活動の充実。
- ・単位量当たりの大きさを求める場面、式の意味や求めた商の意味を理解できるような指導の重視。
- ・面積を実感的に捉えることができるような指導の重視。
- ・合同な図形をかいたり、作ったりする算数的活動を充実し、条件を見いだすことができるような指導の重視。
- ・図に表わされている情報を読み取り、筋道を立てて考えることができるような指導の重視。
- ・根拠となる事柄を示して、理由を説明する指導の重視。

○具体例

- ・場面と図とを関連付けて二つの数量の関係を理解し、演算の決定が正しいことを図を基に確かめることができるようにする学習。
- ・示された高さを作ることができないと判断した根拠を説明する際、わかりやすく説明するには何が必要かを考えられるようにする学習。

(2) 中学校

ア【国語】

話すこと・聞くこと

- ◇(A) 話すための材料を多様な方法で集めること。(A6一)
- ◇(A) 論理的な構成や展開を考えて話すこと。(A6二)
- ◆(A) 話合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと。(A1二)

書くこと

- ◇(A) 伝えたい事項を明確にして書くこと。(A7一)
- ◇(A) 段落の役割を考えて文脈を構成すること。(A7二)
- ◆(A) 書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと。(A3一)
- ◆(A) 文の接続に注意し、伝えたい事項を明確にして書くこと。(A3二)

読むこと

- ◇(A) 描写の効果を考え、内容を理解すること。(A2二)
- ◇(A) 文脈の中における語句の意味を理解すること。(A5一)
- ◆(B) 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること。(B1三)
- ◆(B) 文章の構成や表現の特徴を捉えること。(B3一)

言語事項

- ◇(A) 文脈に即して漢字を正しく読むこと。(A8二1、8二3)
- ◇(A) 漢字の楷書と行書との違いを理解して書くこと。(A8四)
- ◆(A) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。(A8三ア)
- ◆(A) 比喩を用いた表現について理解すること。(A8七一)

◎指導改善に向けて

「書くこと」については、自分の考えや意見をまとめたり表現したりすることに課題があり、今後も、情報を活用し考えさせることを中心に指導をしていく必要がある。また、「書くこと」の指導については、適切に時間を取ることや、推敲する活動を大切にすることが必要である。

言語事項では、言葉への関心を深め、言語感覚を豊かにするとともに、漢字や慣用句など、知識を身に付ける学習を継続させる必要がある。また、他の活動にも積極的に生かしていくように指導することが必要である。

○指導のポイント

- ・目的に応じて、情報の取り上げ方や書き方を工夫して書く指導の工夫。
- ・根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く指導の工夫。
- ・表現の技法について理解したことを各領域等の指導に生かす工夫。
- ・言葉への関心を高め、言語活動を豊かにする指導の工夫。

○具体例

- ・目的や相手に応じて、取り上げる情報(内容)、情報を示す順序性、自分の考えを示す根拠を工夫して書き、それらの留意点を推敲の観点として、伝えたい事柄を明確にして書く学習。
- ・複数の資料を比較読みし、そこから読み取ったことについて自分の考えを書く学習。
- ・同音異義語や同訓異字を使い分ける学習
- ・継続的に指導し覚えた漢字や語句を使って文を書けるようにする学習

イ【数学】

数と式

- ◇(A) 二元一次方程式の解の意味を理解すること。具体的事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること。(A3(2)、3(3))
- ◇(B) 事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明すること。発展的に考え、予想した事柄を説明すること。(B2(1)、2(2))
- ◆(B) 問題場面における考察の対象を明確に捉えること。数学的な結果を事象に即して解釈すること。事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること。(B6(1)、6(2)、6(3))

図形

- ◇(A) 見取図、投影図から空間図形を読み取ること。証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること。(A5(2)、7(1))
- ◇(B) 条件を整理するなどして、証明の新たな方針を立てること。(B4(2))
- ◆(A) 球の体積を、球がぴったり入る円柱の体積との関係から理解すること。(A5(3))
- ◆(B) 示された方針に基づいて証明すること。(B4(1))

関数

- ◇(A) 座標平面上に点の位置を示すこと。一次関数の式において x の値に対応する y の値を求めること。(A10(1)、11(1))
- ◇(B) 与えられた表から情報を適切に選択し、処理すること。(B3(1))
- ◆(A) 関数の意味を理解すること。(A9)
- ◆(B) 事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明すること。事象を理想化・単純化して事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えること。(B1(3)、3(3))

資料の活用

- ◇(A) 平均値の意味を理解すること。(A14(1))
- ◇(B) 資料から必要な情報を適切に読み取ること。(B5(1))
- ◆(A) ヒストグラムから相対度数を求めること。確率の意味を理解すること。(A14(2)、15(1))
- ◆(B) 資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に証明すること。(B5(2))

◎指導改善に向けて

過去の調査を通じて、A問題、B問題共に良好な結果である。今後も基礎的・基本的内容の確かな習得を図ると共に、事象を数学的に解釈し、数学的な表現を用いて説明することができるよう指導していく必要がある。

○指導のポイント

- ・事象を数学的に表現したり、数学的な結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実。
- ・証明の方針を立て、その方針に基づいて証明する活動の充実。
- ・関数の意味を理解し、関数関係を見いだす活動の重視。
- ・資料の傾向を読み取り、分かった事柄を数学的に説明する活動の充実。

○具体例

- ・数量の関係や法則などを図や文字式で表し、表現した結果を事象に即して説明する学習。

- ・証明の方針を立てるために、条件を整理することや着目すべき性質や関係を見いだす学習。
- ・事象の中の数量関係を関数の性質に関連付けて解釈し、事柄が成り立つ根拠を数学的な表現を用い説明する学習。
- ・集積したデータをヒストグラムなどに整理し、傾向を捉え説明する学習。

5 児童生徒質問紙の調査結果

(1) 小学校

【概要】

学習については、塾等で勉強する時間は国や県よりも多いものの、学校の宿題や予習復習をすると回答した児童は国や県を下回っている。国語や算数の授業がわかると回答した児童が国や県よりも高いが、国語に関しては当てはまらないと回答した児童も国や県を上回っていることから、引き続き指導方法の工夫と、家庭と連携した家庭学習の習慣化等改善を図る必要がある。

基本的な生活習慣については、睡眠時間の確保、家庭学習の習慣等に課題が見られるが、朝食を毎日食べている児童が、過去の結果と同様、国や県を上回っており、おおむね良好である。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童が、平成21年度(悉皆調査)から約10ポイント上がり、県よりも高い値となった。今後もさらに指導を重ねていく必要がある。

○学習に対する関心・意欲・態度

- ・「国語の授業の内容がよく分かりますか」という質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童は合わせて81.7%で、県や全国を上回るが、当てはまらないと回答している児童も5.1%おり、引き続き指導方法の改善を図る必要がある。
- ・「算数の授業の内容がよく分かりますか」という質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答している児童は合わせて81.3%で、国や県を上回っている。

○学習時間等

- ・学校の授業時間以外で平均1日あたり学習する時間は、3時間以上の児童が国の2倍以上の割合(23.8%)とかなり高い。しかし、30分より少ないまたは全くしない児童の割合も、国より高く、二極化が見られる。
- ・学校が休みの日に1日あたり4時間以上勉強している児童の割合が国・県に比べて高い。(16.7%)
- ・塾で勉強をしている児童が多く(約65%)、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している」割合が高い。しかし家庭で授業の予習・復習を行っている児童の割合は、国・県に比べて低く、家庭での学習習慣の確立に課題が見える。
- ・読書が好きな児童の割合は、県・国より高いが、嫌いな児童の割合も、国・県より高い。

○基本的な生活習慣

- ・朝食を食べる習慣が、国・県と比べて高く、定着している。
- ・睡眠時間が6時間以上7時間より少ない、6時間より少ないと回答している児童を合わせると9.2%おり、国や県よりも多い。
- ・平日のテレビ・ビデオ視聴時間は1時間以下の児童の割合が高く、4時間以上視聴している児童の割合も、国・県よりかなり少ない。
- ・普段1日あたりテレビゲームをする時間は、「全くしない」「1時間より少ない」を合わせると50%を超え、国・県と比べてゲームをする児童、ゲームをする時間は少ない。

- ・土曜日の午前中は、塾に通う児童と家で勉強や読書をして過ごしている児童の割合が、国・県より高く、外で友だちと遊んでいる児童の割合は国・県の半分にすぎない。
- ・土曜日の午後は、学習塾に通う児童は国の約 2.5 倍、習い事やスポーツ・地域活動に参加している児童は国の約 1.3 倍と多く、友だちと遊んでいる児童は国の半分に過ぎない。
- ・55%以上の児童が携帯電話やスマートフォンを所持しており、増加傾向にある。この状況を踏まえ、家庭では使用のルール作りと徹底、学校では引き続き情報モラル教育の充実が求められる。

○家庭でのコミュニケーション等

- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人とした約束をきちんと守っている児童は、県と同様の傾向で、国よりも高い。

○自尊意識

- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童の割合が、国・県よりも高い。

○規範意識

- ・「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合は県とほぼ同様に、また、「人の気持ちがわかる人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合は、前回よりも高くなり、今回は県を上回って、国とほぼ同様の結果となった。

(2) 中学校

【概要】

学習については、感想文や説明文を書くことや、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいと回答している生徒が県・全国に比べて少ない。小学校からの取組もあり、書くことに抵抗感が少ないと考えられる。

基本的な生活習慣については、午前0時以降に寝ると回答した生徒の割合が全国より多いなど、多少課題はあるが、平成 21 年度の悉皆調査と比べ、さらに朝食の喫食率が上がるなど改善傾向が見られる。また、家庭で予習復習をしたり学校の宿題をしたりする生徒も、平成 21 年度と比べ高くなっており、学習習慣の改善も見られる。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童が、平成 21 年度調査から 16%上がり、県よりも高い値となった。今後もさらに指導を重ねていく必要がある。

○学習に対する関心・意欲・態度

- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている生徒の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で 65%となっており、国・県を上回っている。
- ・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える生徒の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で約 73%となっており、国・県を上回っている。
- ・数学の授業で問題の解き方が分かるようにノートに書いている生徒の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で約 84%となっており、国・県を上回っている。

○学習状況

- ・授業で、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う生徒の割合は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で 46%だが、国・県の割合を上回っている。

- ・普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると回答している生徒の割合は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の両方で 80%を超え、国・県を上回っている。日頃の授業で話し合い活動がよく行われており、それを生徒も認識していると考えられる。

○学習時間等

- ・小学校の調査と同様に塾で勉強をしている生徒が約 75%と国・県と比べて多く、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している」割合が特に国と比べて高い。

○基本的生活習慣

- ・朝食を毎日食べている生徒は約 86%で、国・県の値より若干高い。この値は、平成 21 年度調査(悉皆調査)の時よりも高くなっており、全く食べないと回答している生徒は、2%から 0.8%に減少していることから、改善傾向にある。
- ・月～金曜日までの起床時間が7時前の生徒の割合は、国の値より 15%以上低い一方、月～金曜日までの就寝時刻が午前0時以降の生徒は国の値より多い。
- ・普段1日あたりテレビゲームをする時間は、「全くしない」「1時間より少ない」を合わせると約 60%になり、小学校の調査と同様に国・県と比べてゲームをする生徒、ゲームをする時間は少ない。
- ・家で学校の宿題をしていると回答している生徒は 62%おり、平成 21 年度調査の 46.8%から大きく上がっており、家庭学習の習慣化が進んでいる。

○家庭でのコミュニケーション等

- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、「家の人との約束を守っている」「だいたい守っている」生徒は約 55%で、国の値よりは高いが、県より低い。

○自尊意識

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は国・県よりも高く、過去の調査と比べても高くなっている。

○規範意識

- ・小学校の調査と同様に、規範意識についての割合が、「学校の決まりを守っている」という問いに「当てはまる」と回答した生徒の割合が、今回は県よりも高くなり国とほぼ同様の結果となった。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という問いに「当てはまる」と回答した生徒の割合は、県とほぼ同様の結果となった。

6 今後の学校での取組

全国学力・学習状況調査における本市の集計結果は、学習面では過去の調査と同様、良好な結果を示しています。また、いじめに対する児童生徒の意識が、過去の悉皆調査の時よりも高められており、いじめ防止の取組等、成果が見られます。

学習においては、各教科の調査分析にまとめた、領域の課題、指導のポイント及び具体例をもとに、今後も引き続き、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組を進める必要があります。児童生徒が達成感、成就感を持って、意欲的に学習活動に取り組むことができるような授業の工夫、自分の考えをまとめたり、伝え合うことで考えを深めたり広げたりする活動の充実、妥当性、信頼性のある学習評価の工夫等が重要です。

また、規範意識の向上やさらなる基本的な生活習慣の定着にも、引き続き取り組んでいくことが大切です。そのためには、全教職員が課題を共通理解し、指導の改善に当たることや家庭や地域と連携して、指導の充実を図ることが重要です。

※ 使用している用語についての説明は次のとおりです。

- 平均正答数 ……児童及び生徒の正答数の平均
- 平均正答率 ……児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示
- 中央値 ……集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと
平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。
- 標準偏差 ……集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。
標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味する。

調査結果概況 [国語A：主として知識]

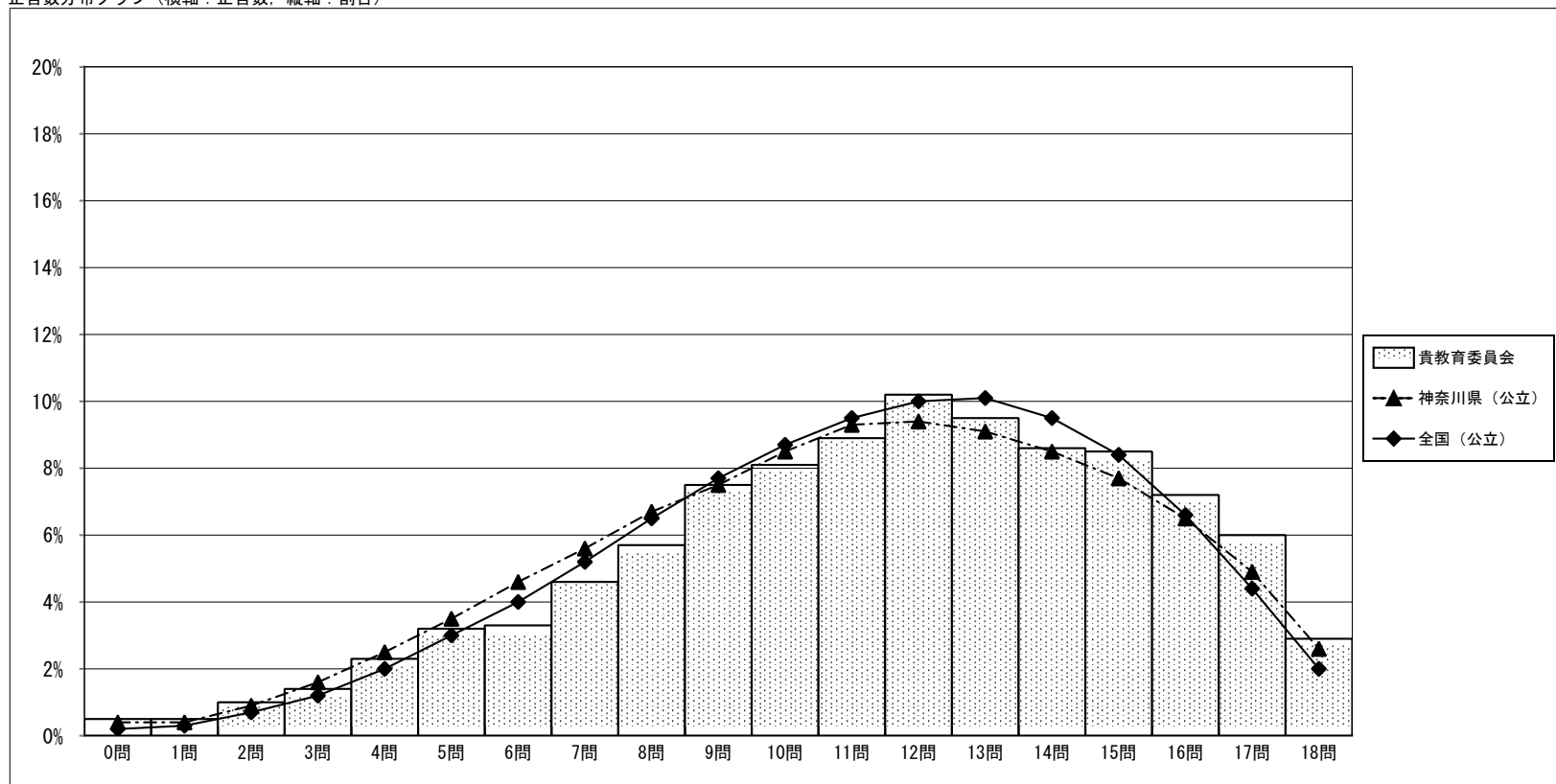
鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,367	11.4 / 18	63.3	12.0	4.0
神奈川県 (公立)	76,533	11.1 / 18	61.5	11.0	3.9
全国 (公立)	1,108,245	11.3 / 18	62.7	12.0	3.7

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	7	0.5
1問	7	0.5
2問	14	1.0
3問	19	1.4
4問	32	2.3
5問	44	3.2
6問	45	3.3
7問	63	4.6
8問	78	5.7
9問	102	7.5
10問	111	8.1
11問	121	8.9
12問	139	10.2
13問	130	9.5
14問	118	8.6
15問	116	8.5
16問	99	7.2
17問	82	6.0
18問	40	2.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



調査結果概況 [国語B：主として活用]

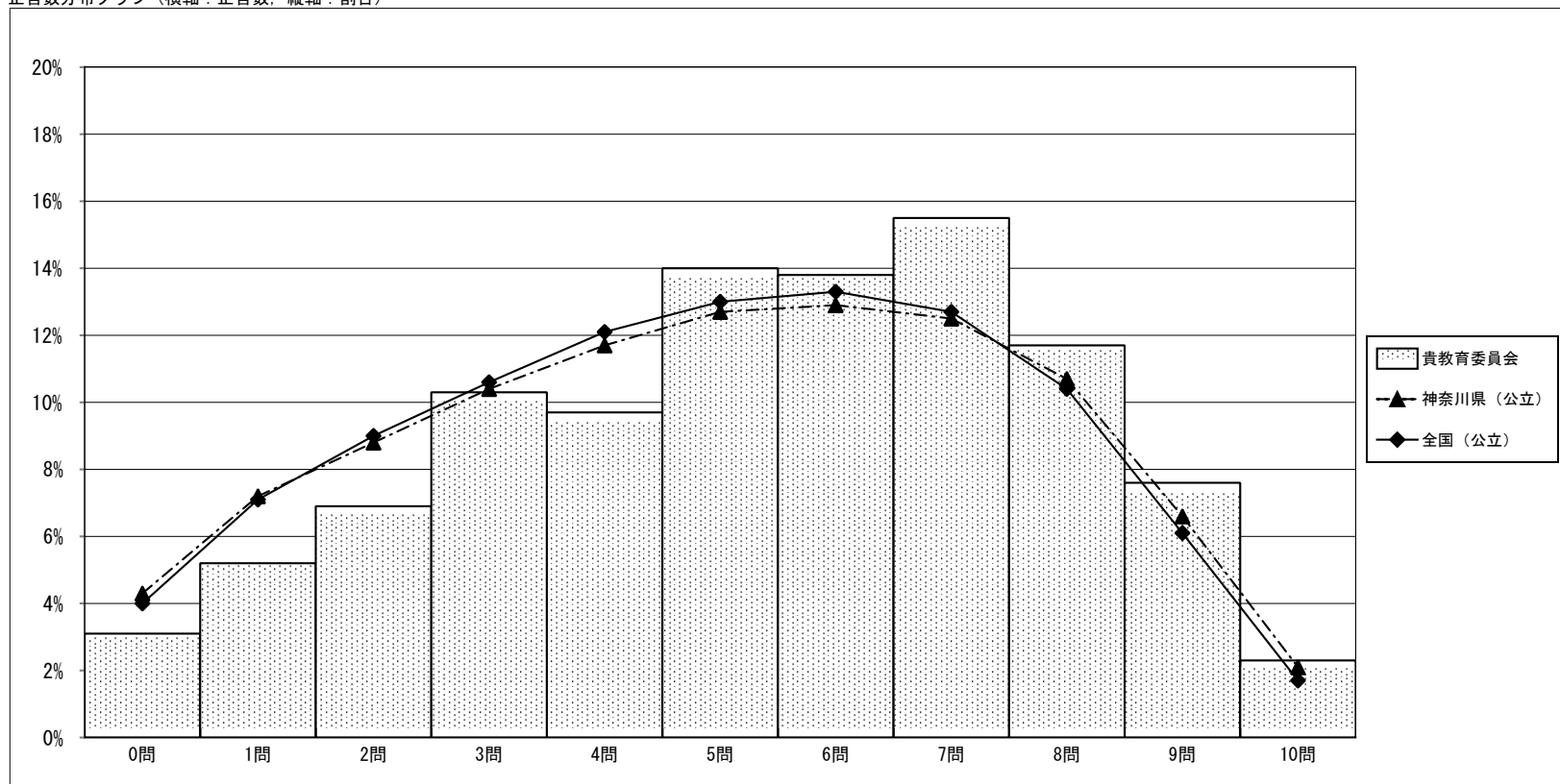
鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,368	5.3 / 10	53.5	6.0	2.5
神奈川県 (公立)	76,524	5.0 / 10	49.7	5.0	2.6
全国 (公立)	1,108,075	4.9 / 10	49.4	5.0	2.6

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	42	3.1
1問	71	5.2
2問	94	6.9
3問	141	10.3
4問	133	9.7
5問	191	14.0
6問	189	13.8
7問	212	15.5
8問	160	11.7
9問	104	7.6
10問	31	2.3

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



調査結果概況 [算数A：主として知識]

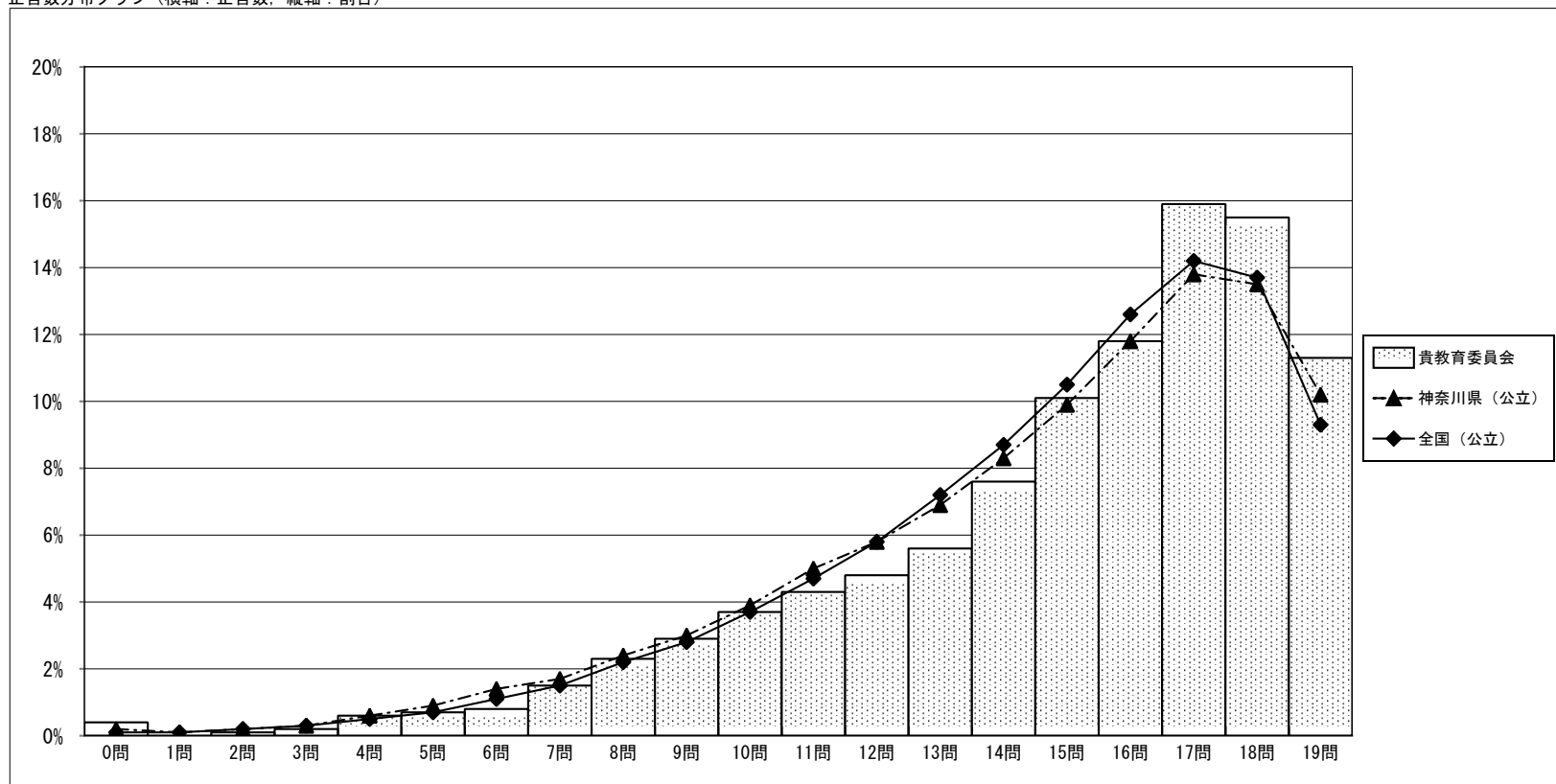
鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,368	14.9 / 19	78.4	16.0	3.6
神奈川県 (公立)	76,539	14.5 / 19	76.5	15.0	3.7
全国 (公立)	1,108,272	14.7 / 19	77.2	15.0	3.5

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	5	0.4
1問	0	0.0
2問	2	0.1
3問	3	0.2
4問	8	0.6
5問	10	0.7
6問	11	0.8
7問	21	1.5
8問	31	2.3
9問	39	2.9
10問	51	3.7
11問	59	4.3
12問	65	4.8
13問	76	5.6
14問	104	7.6
15問	138	10.1
16問	162	11.8
17問	217	15.9
18問	212	15.5
19問	154	11.3

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



調査結果概況 [算数B：主として活用]

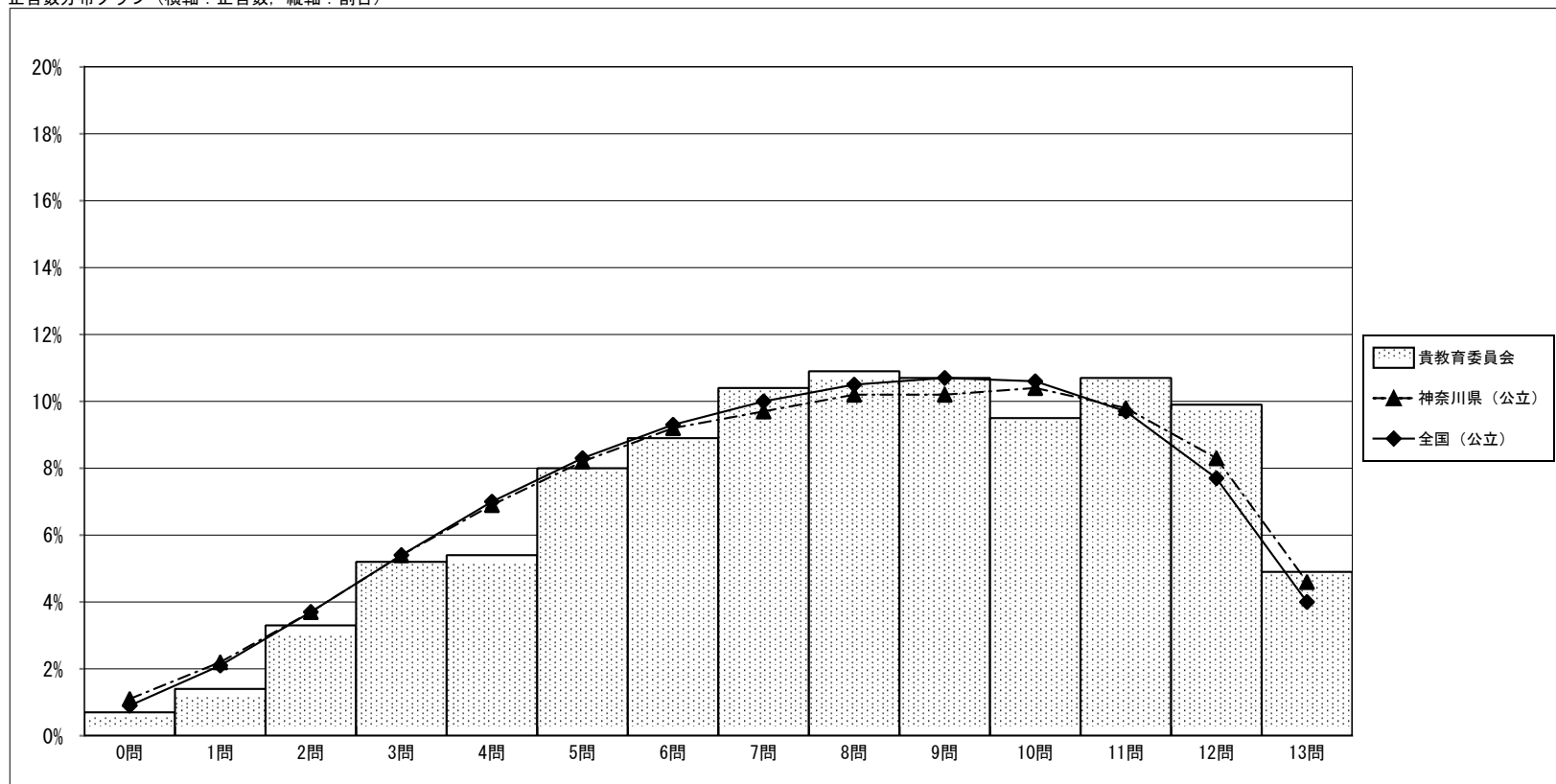
鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,369	7.9 / 13	60.9	8.0	3.2
神奈川県 (公立)	76,531	7.6 / 13	58.7	8.0	3.2
全国 (公立)	1,108,107	7.6 / 13	58.4	8.0	3.2

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	9	0.7
1問	19	1.4
2問	45	3.3
3問	71	5.2
4問	74	5.4
5問	110	8.0
6問	122	8.9
7問	143	10.4
8問	149	10.9
9問	147	10.7
10問	130	9.5
11問	147	10.7
12問	136	9.9
13問	67	4.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



調査結果概況 [国語A：主として知識]

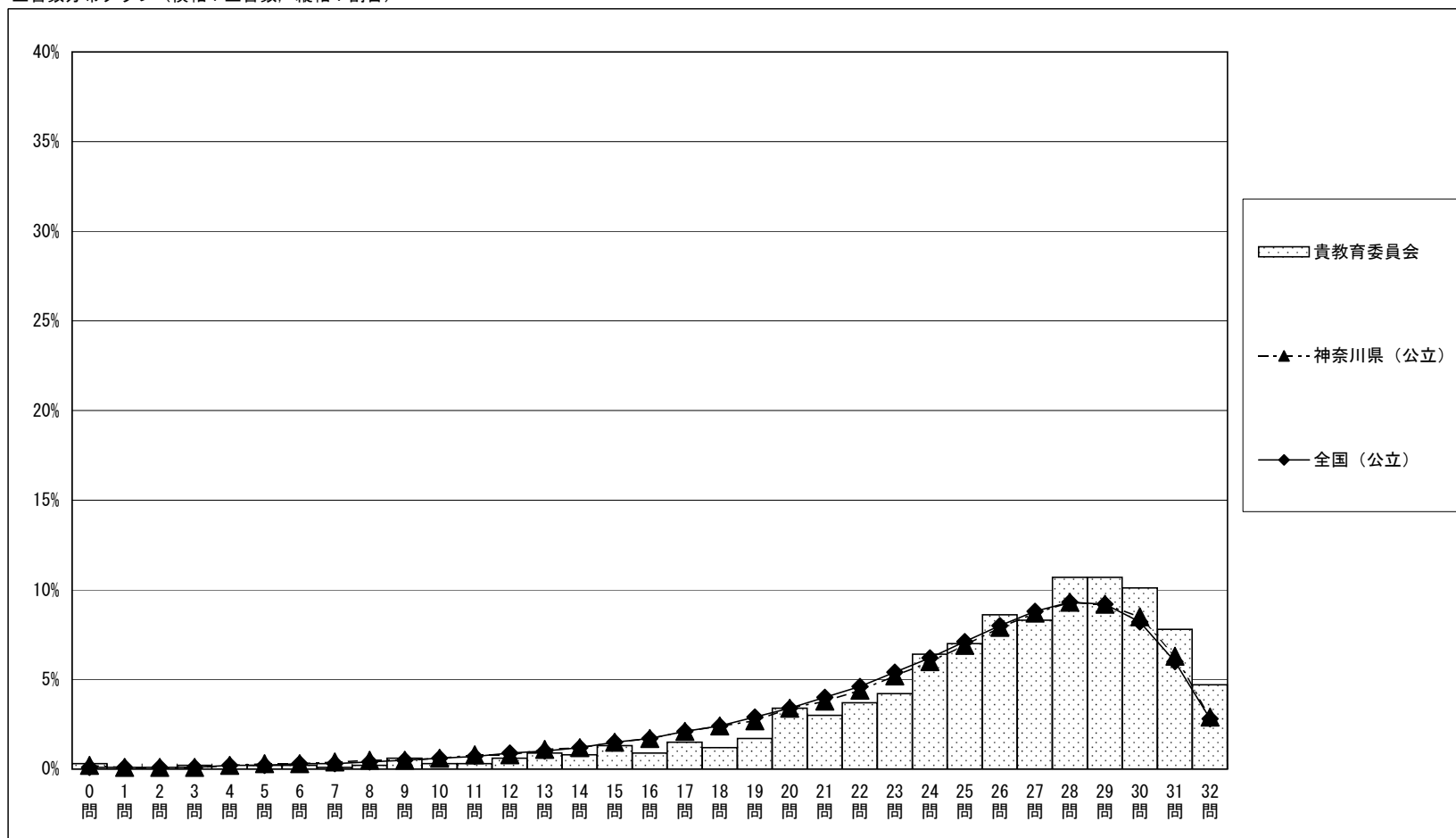
鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,061	25.5 / 32	79.8	27.0	5.3
神奈川県 (公立)	65,875	24.4 / 32	76.3	26.0	5.8
全国 (公立)	1,026,851	24.4 / 32	76.4	26.0	5.7

正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	3	0.3
1問	0	0.0
2問	0	0.0
3問	2	0.2
4問	0	0.0
5問	2	0.2
6問	2	0.2
7問	1	0.1
8問	2	0.2
9問	6	0.6
10問	3	0.3
11問	3	0.3
12問	6	0.6
13問	10	0.9
14問	9	0.8
15問	14	1.3
16問	10	0.9
17問	16	1.5
18問	13	1.2
19問	18	1.7
20問	36	3.4
21問	32	3.0
22問	39	3.7
23問	45	4.2
24問	68	6.4
25問	74	7.0
26問	91	8.6
27問	88	8.3
28問	114	10.7
29問	114	10.7
30問	107	10.1
31問	83	7.8
32問	50	4.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



調査結果概況 [国語B：主として活用]

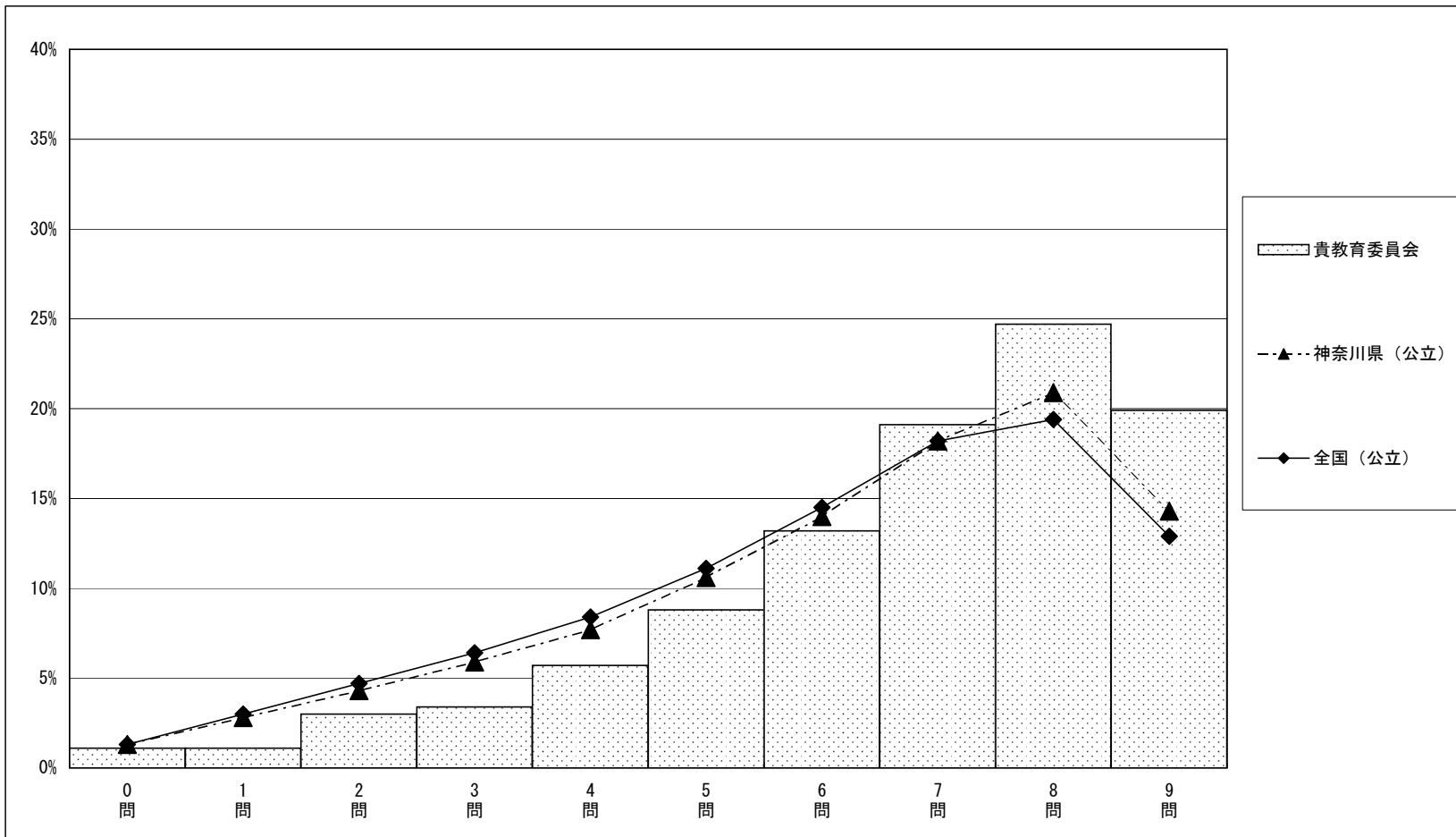
鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,061	6.7 / 9	74.8	7.0	2.1
神奈川県 (公立)	65,919	6.2 / 9	68.9	7.0	2.3
全国 (公立)	1,027,087	6.1 / 9	67.4	7.0	2.3

正答数集計値 (左：生徒数 右：割合 (%))		
0問	12	1.1
1問	12	1.1
2問	32	3.0
3問	36	3.4
4問	60	5.7
5問	93	8.8
6問	140	13.2
7問	203	19.1
8問	262	24.7
9問	211	19.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



調査結果概況 [数学A：主として知識]

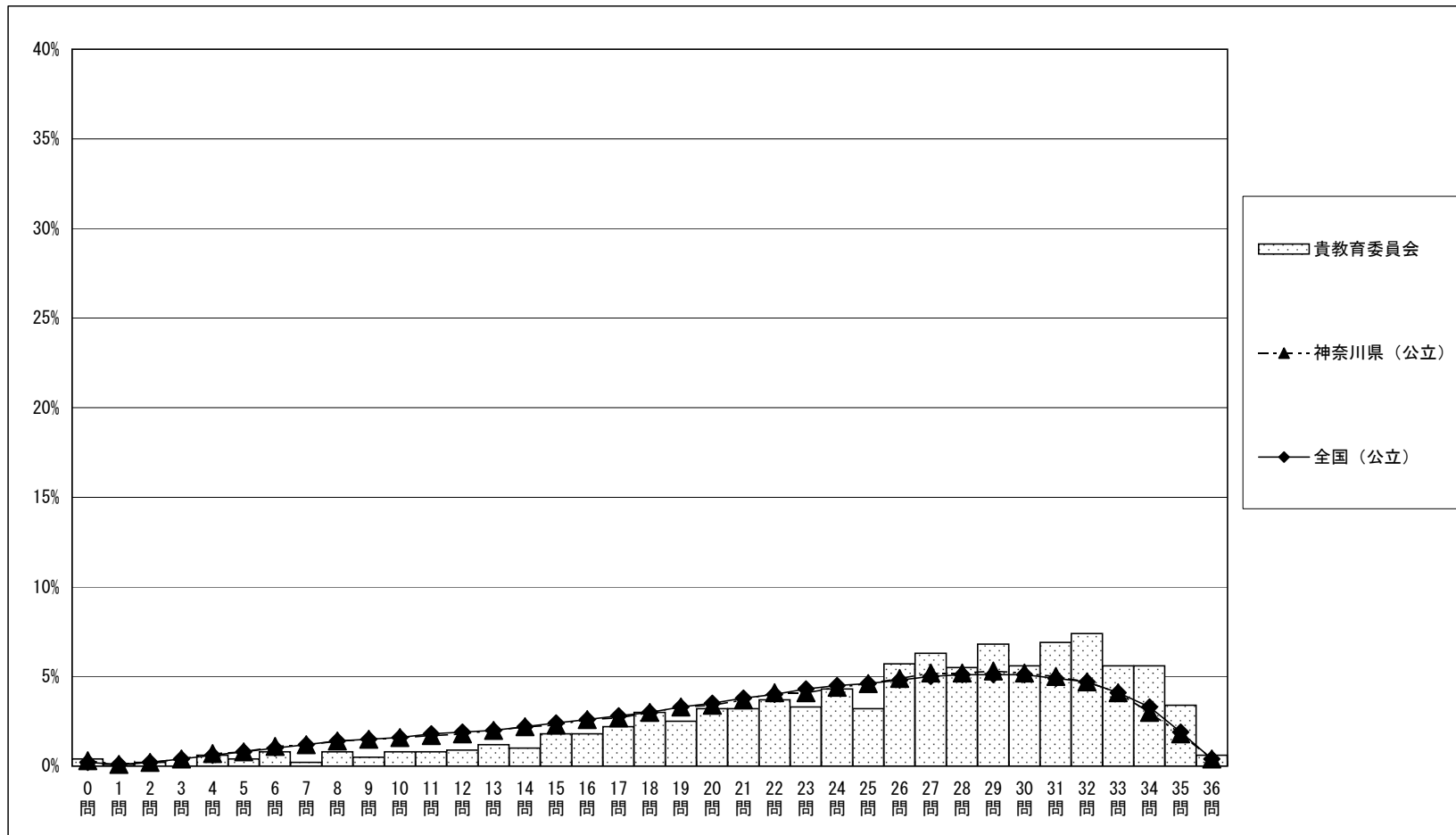
鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,061	25.4 / 36	70.6	27.0	7.3
神奈川県 (公立)	65,934	23.0 / 36	63.8	24.0	8.0
全国 (公立)	1,027,458	22.9 / 36	63.7	24.0	8.0

正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	4	0.4
1問	1	0.1
2問	2	0.2
3問	0	0.0
4問	6	0.6
5問	4	0.4
6問	8	0.8
7問	2	0.2
8問	9	0.8
9問	5	0.5
10問	9	0.8
11問	9	0.8
12問	10	0.9
13問	13	1.2
14問	11	1.0
15問	19	1.8
16問	19	1.8
17問	23	2.2
18問	32	3.0
19問	26	2.5
20問	34	3.2
21問	34	3.2
22問	39	3.7
23問	35	3.3
24問	46	4.3
25問	34	3.2
26問	60	5.7
27問	67	6.3
28問	58	5.5
29問	72	6.8
30問	59	5.6
31問	73	6.9
32問	78	7.4
33問	59	5.6
34問	59	5.6
35問	36	3.4
36問	6	0.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



調査結果概況 [数学B：主として活用]

鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,059	7.9 / 16	49.5	8.0	4.1
神奈川県 (公立)	65,926	6.7 / 16	41.9	6.0	4.2
全国 (公立)	1,027,411	6.6 / 16	41.5	6.0	4.1

正答数集計値 (左：生徒数 右：割合 (%))		
0問	27	2.5
1問	48	4.5
2問	59	5.6
3問	56	5.3
4問	72	6.8
5問	59	5.6
6問	80	7.6
7問	85	8.0
8問	72	6.8
9問	81	7.6
10問	92	8.7
11問	89	8.4
12問	69	6.5
13問	73	6.9
14問	55	5.2
15問	32	3.0
16問	10	0.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)

